

## 2020 年度実施概要

学校名

島根県立吉賀高等学校

採択活動名

高津川流域を活用した森里海連環学への取り組み

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 普通科地域創造コース（グリーンライフコース）	2 学年	環境基礎
2. 普通科地域創造コース（グリーンライフコース）	3 学年	環境演習

取り組みの概要

2 年次は主に「高津川の水質調査」と「木材建築の見学と設計」を通して、森里川海のつながりを体験的に学んだ。その中で、林業体験や棚田体験、自ら野菜栽培をし、収穫まで行う体験を積み重ねる体験を通して、自然環境だけでなく、吉賀地域の現状や地域の未来について、自らが主体となって考える力を身に付けた。3 年次は、主として「高津川の生き物調査」や「ハマグリを始めとした海洋生物の調査」といった学習を通して、森から川、川から海、海から里への軌跡をたどり、そのつながりについて学んだ。また、堰堤やダム、魚道の見学、浄化センター見学などを通じて、山から海へのつながりを、自らの生活と結び付け、主体的に考えることができた。こうした学習を通じて、自分達が住んでいる高津川流域の吉賀地域が世界につながっていることを感じる事ができた。また、学習を通して地球を守るために自分達が今できることについて考える思考力を身に付け、広い視野で自分の生き方を考える感性を養うことができた。

例年、多くの連携機関や専門的な知識をもった講師のおかげで、年間を通してさまざまな活動を実施できたが、それぞれ単発的な学びで終わっていることが課題であった。今年度は、総合的な探究の時間に自然を使って遊ぶことで地域をつなげたいという目的をもった生徒が、環境の時間で学んだ「火起こし」の方法を小学生に教えた後に、自然の材料を用いた遊びを提案して交流をもつ」など、生徒の意識の中で環境を学ぶことの意義を地域に発信していくような取組がみられた。今後は、総合的な探究の時間だけではなく、他教科の授業と連動してくれば、より学びが深まるのではないかと考える。様々な教科担当と連携を図ることで、教科間の相互作用が生まれ、生徒の思考力・判断力・表現力等がより促進されるよう取り組んでいきたい。

地域クラブでは、近隣の高等学校である津和野高校、益田高校 3 校合同で森里海連環学フィールドワークを予定していたが、春のヒラメの稚魚の採集・分類や、稚魚からの耳石採集は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。また、夏には高津川を船で走行し、鮎を捕獲するなど川の恵みを体感し、秋には安蔵寺山でミズナラやブナなど植生の観察及びキノコ採取・同定を通して森についての学習を広める予定だったが、新型コロナウイルス感染症の不安等もあって本校からの希望者がおらず、残念ながら実施できなかった。しかし、3 校連携の試みの中で、京都大学森里海連環学教育研究ユニット特任教授の山下洋先生を本校には 10 月 22 日にお招きし、「森里海連環学講演会」として、スズキやウナギの耳石を研究することで魚の年齢や生育環境が分かることや、川の水には生き物の鱗や糞などの DNA が浮遊しているた

め、川の水を調べればどんな生物が生息しているのかわかるなど、1年生に対して環境に興味を深まる講演を開催した。

#### 活動中の写真

デジタルデータにて2~3枚の添付をお願いします。

(本ファイルへの貼り付け、別ファイルでの添付、どちらでも構いません)



「森里海連環学講演会」



「わさび栽培」見学